

事業の成果

＜地域共生社会の実現につながる「働き」「活動参加」を目指して＞

●令和3年度は、お手紙弁当の事業が柱となった

長引くコロナ禍で対面できなくてもできる交流・つながりづくりとして、孤立しがちな高齢者を主な対象者とし、一人ひとりに宛てて書いた手書きのお手紙と、自宅でできる健康維持体操のリーフレット付き弁当を希望する人に宅配する活動に取り組み始めた。

お手紙弁当事業に取り組んだことで、多くの気づきや、ロクマル世代だからこそ高齢社会でやるべきことが少しずつえてきた。

都筑区は、区内住民が高齢になった親を呼び寄せる「呼び寄せ高齢者」が知り合いもなく引きこもってしまう課題を抱えている。そうした人も含め、孤立しがちな高齢者とコミュニケーションを図り、一方、ロクマル世代以降の人たちが「働く」ことを通して社会とつながっていくことも目指して取り組んでいる。

＜お手紙弁当を利用する後期高齢者も、活動の担い手となる＞

これまでのお手紙弁当の利用者には、80～90代の一人暮らしの女性が目立つ。お手紙弁当利用者とお弁当お届けのやり取りの中で、手芸が好きだったがやらなくなったという声が多いこと、いくつになっても「役に立ちたい」という気持ちが強い傾向が把握できた。これを踏まえ、利用者として助けられるばかりでなく、活動の担い手として、高齢になってもできることを見つけ参加できる企画をロクマル世代が立案し、導入することとした。箸袋を折り紙で作ってもらい販売弁当に添える試みとして、年末に試験的に祝箸づくりに取り組んでもらったところ、作るだけでなく、誰かが使ってくれることへの喜びが生まれるなど、後期高齢者以降の世代が、生きがいを持って「地域共生社会」の一端を担う動きにつながりつつある。

＜少しずつ見守り活動につながる＞

まだ事例は少ないながら、宅配時に高齢者の体調や心の変化をいち早く発見する見守りにつながる場面もあった。今後は見守り活動が機能していくように、活動メンバーのレクチャーも検討したい

＜呼び寄せ高齢者への対応＞

都筑区は、区内住民が高齢になった親を呼び寄せる「呼び寄せ高齢者」が多いといわれており、ことにコロナ禍においては、知り合いもなく引きこもってしまうといった課題を抱えている。地域地域包括センターとの連携で、こもりがちな高齢者とコミュニケーションを図る場づくりに取り組んだ。

＜ロクマル世代からの働く場としての一歩となった＞

20～30年後の高齢社会ピーク時に後期高齢者の多くを占めるのは、現在50～60代のロクマル世代である。この世代の人生後半の「ライフ&ワーク」の充実が、多様な地域住民の主体的な地域参加につながる。

「お手紙弁当」を通して地域コミュニティを創出し、併せて60歳からの働く場として定着させるための一歩となった。今後もロクマルの社会参加を地域課題の解決につなげる。

＜地域へ情報還元（冊子づくり）＞

お手紙弁当を利用者に届けるときに、高齢者と話しをすることで、日々の暮らしや困りごとを知る機会となっている。そこには「老い」について多くの学びあることに気づいた。活動を通して見えてきたこと、気づいたこと、さらに利用者取材し、冊子にまとめて、地域に還元していく。今後も利用者に「してあげる」ではなく、当団体との間に、双方向の関係を築いていくことに力点をおく。

＜高齢者の力を地域で活用＞

冊子づくりで利用者取材したことにより、手芸が好きだったがやらなくなったという声が多いこと、いくつになっても「役に立ちたい」という気持ちが強いことを知った。体への負担がなく、だれかの役に立つものとして、現在、お弁当の箸袋を折り紙で作ってもらい販売弁当に添える準備をすすめている。

20～30年後の高齢社会ピーク時に後期高齢者の多くを占めるのは、現在50～60代のロクマル世代である。この世代の人生後半の「ライフ&ワーク」の充実が、多様な地域住民の主体的参加につながり、持続可能な地域共生社会の実現が図られる。お手紙弁当の活動は、堅固な地域コミュニティを創出し、併せて60歳からの働く場として定着させるための一歩となった。今後もロクマルの社会参加を地域課題の解決につなげる。

事業内容

1) 1) 特定非営利活動に係る事業

○中高年からの自分らしい働き方の実現や起業を支援する事業

○中高年からの働き方や人生設計に必要な知識やスキルを提供する事業

支出額計： 822,544 円

①ロクマルスクール開催事業

ア) ー1 開催名 【ファシリテータ講座】

趣旨：参加者の主体性を促し、より多くの発言を引き出す。ロクマルが目指す講座に求められるファシリテーターの育成。

日時：2021年4月10日9:30～11:30

主な内容：ファシリテーションの基本的な考え方を学び、実践してみるワークショップ型講座

場所：NPO法人ロクマル事務局

対象者：講座を開きたい人、ロクマルの活動に関わってみたい人

アー2 開催名【フェイクニュース講座】

趣旨：膨大な情報の中で自分に必要な情報を見極める力を身につける

日時：2022年1月15日(土)9:30～11:00

主な内容：さまざまな実例をもとに、情報への向きあい方、活用の仕方を学んだ

場所：オンライン講座

対象者：ロクマル会員 興味のある人ならだれでも。

1+2 支出額：52,366円

イ) ー2 開催名 【学び直し塾4期】

趣旨：ロクマルからは地域で働く、地域に仕事を創る。社会の現状や制度を学んで「働く」につながる実践講座。

日時：2021年10月2日～12月11日

主な内容：必修5講座（高齢社会を知る、働くのイメージを膨らませるなど） 選択3講座（仕事を創るワークショップなど）公開1講座 製造業現場見学など

場所：対面会場をオンラインのハイブリット開催。地域の工業団地

対象者：ロクマルからの働くことに意欲と関心のある人ならだれでも。

後援：横浜市政策局

支出額：63,519円

②ロクマル交流会開催事業

開催名：【ロクマルオークション】

趣旨：ロクマル会員間の交流を深める。会話しながら値の動きを見ながら楽しく盛り上がる、交流が目的のオークション。

日時：2021年9月4日（土）9：30～11：00

主な内容：

場所：オンライン開催

対象者：ロクマル会員

支出額：4,349円

③お手紙弁当事業

ア) 開催名 【お手紙弁当お届け】

趣旨：長引くコロナ感染予防の自粛生活により、引きこもりがちになってしまった高齢者の孤立や体力低下の予防につなげることを目的に、＜地場野菜たっぷりのお弁当＋自宅で手軽にできる健康維持体操のリーフレット＋お手紙（一人1人に宛ててたお手紙）＞を希望者に届ける活動

日時：毎週水曜日木曜日 火曜日仕込み

主な活動場所：みんなのキッチン 都筑区全域にお届け

対象者：利用者延べ763名 活動参加者延べ名320名

支出額：502,170円

イ) 開催名：【お手紙弁当冊子づくり2号】

趣旨：お手紙弁当の活動を通して見えてきた後期高齢者の暮らしや課題を年1回程度の頻度で冊子にまとめ情報発信する。高齢者は助けられるばかりの存在ではなく、ロクマル世代に、後期高齢期の暮らし・生き方について学びの機会を与える存在でもある。「お手紙弁当」は一方通行ではない共助の関係を構築する有効な手段であることを可視化して発信し、地域内に共感や社会参加への動きを呼び起こし事業の深化を図る。

日時：2021年10月～11月ライター育成講座 12月～2月 取材。原稿執筆

主な活動場所：育成講座オンライン 取材各活動場所など 配布は、ロクマル会員、配架協力施設など。

対象者：ライター育成講座修了生6名 講師2名 編集2名 取材対象者85名

支出額：200,140円